

## 委託事業実施内容報告書 平成26年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 【地域日本語教育実践プログラム(B)】

受託団体名 長野県

### 1. 事業名称

バイリンガル指導者を活用した日本語学習支援事業

### 2. 事業の目的

同国人に対して日本語と母国語で生活に必要な日本語表現の指導や、日本社会の習慣、マナーを伝授するバイリンガル人材を育成し、その者を活用した日本語教室を実施することにより、日本語学習支援の拡充を図り、外国籍県民等の自立と社会参画を目指す。

バイリンガル人材が実体験を基に、外国人として最も必要としていること・学ぶべきことは何かを考え、同国人に指導していくことにより、外国人のニーズにあった日本語教育を行う。

### 3. 事業内容の概要

同国人に対して、日本語と母国語で、日本語指導や日本社会の制度、習慣等を伝えることができる人材を育成する。さらに、育成講座修了者が、各コミュニティで必要とされる日本語表現のニーズ分析を行い、自ら指導者となる日本語教室の内容を企画する。バイリンガル指導者が、コミュニティ内外の日本語が不自由なために課題を抱えている層を対象に呼び掛けをし、子育てや公的サービスを受ける上で必要な日本語表現など、ニーズに基づいた日本語表現を教える教室を実施する。

これにより、日本の制度や習慣を真に理解でき、生活に必要な日本語への認識が深まる。

### 4. 運営委員会の開催について

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成26年4月24日(木) 13:30～ 15:30	2時間	長野県庁 特別会議室	・浅川 佐代子(長野市古里支所住民自治協議会人権共生委員会 副委員長) ・石井 恵理子(東京女子大学 教授) ・小山 富男((公財)長野県国際化協会 常務理事兼事務局長) ・塩澤 正男(長野市教育委員会) ・春原 直美(佐久市市民活動サポートセンター長)	○バイリンガル日本語指導者育成講座の検討 ・各回の授業内容 ・受講者の参集状況 ・修了認定方法 ・事業成果の検証方法 ・その他	・修了認定方法については、ペーパーテストでなく、パフォーマンステストとして、教室企画書を提出させ、それを成果物とする。 ・育成講座修了者をどう支援していくか検討が必要。
2	平成26年7月24日(木) 13:30～ 15:30	2時間	長野県庁 西庁舎302	・返町 健(長野市国際室長) ・堀 永乃((一社)グローバル人材サポート浜松 代表) ・宮沢 照子(医療法人 宮沢医院 理事) ・白鳥 博昭(長野県国際課長)	○バイリンガル日本語指導者育成講座の進捗状況と報告 ・受講状況 ・実施内容 ・バイリンガル指導者による日本語教室について ○子どもの学習支援に係る学校と地域の連携について	・グループ内の役割分担をしっかりと行なう。 ・日本人をどれくらい巻き込めるかがポイント。 ・外国人指導者と日本人が対等に協力できる構図で、教室を実施することを目指す。
3	平成26年11月20日(木) 13:30～ 15:30	2時間	長野県庁 議会棟403	・返町 健(長野市国際室長) ・堀 永乃((一社)グローバル人材サポート浜松 代表) ・宮沢 照子(医療法人 宮沢医院 理事) ・白鳥 博昭(長野県国際課長)	○外国人コミュニティのための日本語教室の実施状況 ○多文化共生シンポジウムの実施計画 ○外国籍児童生徒等の日本語学習支援について	・バイリンガル指導者の到達点を明確にすべき。教室活動が継続しているうちに、目標を皆で作っていくための機会を設定する。
4	平成27年3月12日(木) 13:30～ 15:30	2時間	長野県庁 特別会議室	・返町 健(長野市国際室長) ・堀 永乃((一社)グローバル人材サポート浜松 代表) ・宮沢 照子(医療法人 宮沢医院 理事) ・白鳥 博昭(長野県国際課長)	○外国人コミュニティのための日本語教室の実施状況について ○多文化共生推進シンポジウム(2/22実施)の報告 ○外国籍児童生徒等の日本語学習支援について ○長野県多文化共生推進指針策定について ○平成27年度日本語学習支援事業の計画について	・「外国人コミュニティのための日本語教室」について来年度は、実施済みの地域はよりレベルアップした内容で取り組み、新しい地域については今年度の反省を踏まえ実施することを目指す。

## 5. 取組についての報告

### ○取組1:バイリンガル日本語指導者育成講座

- (1) 体制整備に向けた取組の目標  
生活に必要な日本語表現をバイリンガルで指導できる知識とノウハウの習得。
- (2) 取組内容  
同国人に対してバイリンガルでの日本語指導と日本社会の習慣やマナーを教授できる人材を育成する。
- (3) 対象者  
日本語能力試験N2以上を取得あるいは同等レベルの外国籍県民等
- (4) 修了者数 30人  
出身・国籍別内訳

中国	12人	タイ	9人
ブラジル	8人	フィリピン	1人

- (5) 開催時間数(回数) 21時間 (全 7回)

- (6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成26年5月11日(日) 13:00~16:00	3時間	長野市もんぜんぶら座 会議室	33人	中国(10人)、タイ(10人)、ブラジル(10人)、フィリピン(2人)、ロシア(1人)	・ウォーミングアップ ・バイリンガル指導者の役割 ・異文化社会で暮らすこと	・外国人をとりまく社会的背景と課題、自立のための日本語習得の必要性について。多文化共生社会のためにバイリンガル指導者が果たしている役割を具体的に考える。 ・文化の違いから起こる誤解や対立、心理的葛藤等の現象について。自らの経験を基に、日本社会に適應する際に必要なことを考える。	石井 恵理子	—
2	平成26年5月25日(日) 13:00~16:00	3時間	長野市もんぜんぶら座 会議室	31人	中国(10人)、タイ(8人)、ブラジル(10人)、フィリピン(3人)	・価値観の多様性 ・コミュニティのニーズ分析	・挨拶、お礼、お詫び等のコミュニケーション、習慣やマナーなど、人間関係に関わる言語行動や規範意識等の文化差を知り、相互に調整する方法を考える。 ・各コミュニティで必要とされることを考える。	徳井 厚子 堀 永乃	—
3	平成26年6月8日(日) 13:00~16:00	3時間	長野市もんぜんぶら座 会議室	30人	中国(10人)、タイ(10人)、ブラジル(10人)	・日本語の整理とブラッシュアップ	・N2~N1レベルの日本語(文法・語彙など)について、教えるための整理。 ・話しことばと書きことば、スピーチレベルによることばの使い分けなど。	佐藤 佳子	—
4	平成26年6月22日(日) 13:00~16:00	3時間	長野市もんぜんぶら座 会議室	29人	中国(8人)、タイ(9人)、ブラジル(11人)、フィリピン(1人)	・子どもの日本語学習支援に際して知っておくべきこと ・日本の教育と学校文化	・年少者の日本語支援、学習支援をする際に必要な知識を学ぶ。 ・日本の教育制度や進路選択の実際、学校の決まりや行事など日本の学校文化を理解し、自分の出身国との違いを確認する。保護者に期待されることを知り、十分な対応が困難な保護者の支援について考える。	石井 恵理子 大橋 春美	—
5	平成26年7月6日(日) 13:00~16:00	3時間	長野市もんぜんぶら座 会議室	27人	中国(8人)、タイ(8人)、ブラジル(10人)、フィリピン(1人)	・学校とのやり取りで使う日本語表現 ・公的サービスの仕組みと手続きに必要な日本語表現	・学校からの通知の読み方、担任とのやり取りで使用する日本語表現や、背景知識について。 ・医療、保険の仕組み、必要な手続きや行政文書で使用される基本的日本語表現について。	栗林 恭子 佐藤 佳子	—
6	平成26年7月13日(日) 13:00~16:00	3時間	長野市もんぜんぶら座 会議室	24人	中国(4人)、タイ(9人)、ブラジル(9人)、フィリピン(2人)	・日本語コミュニケーション活動の設計	・各コミュニティで周囲の人々と関わりながら日本語力を高めていくことを目指し、活動を考える。経験・知識、日本語力など多様な人々が一緒にできる内容、理解のための手立て、ことばの整理などを具体的に検討する。	堀 永乃	—
7	平成26年8月3日(日) 13:00~16:00	3時間	長野市もんぜんぶら座 会議室	29人	中国(9人)、タイ(8人)、ポルトガル(10人)、タガログ(2人)	・模擬演習 ・活動方針発表、講評	・参加者同士で活動案を実践する。	佐藤 佳子	—

- (7) 取組の目標の達成状況・成果

終了式では36名中30名が終了書を授与され、受講の経験を基に今後ニーズに合った教室を展開していけるのではないかと感じた。

(8) 改善点について

・バイリンガル指導者育成講座の時点で、秋からは教室を実施していくことや今後バイリンガル指導者などとして活動をしていてもらいたい旨を明確に説明できなかった。

・バイリンガル指導者育成講座から日本語教室へ移行していく期間、各教室の実施までに十分な準備期間がなかったため、バイリンガル指導者たちには「何か活動してみよう！」という前向きな希望やモチベーションを持ってもらう以上に、負担の方が大きくなってしまった。

○取組2:外国人コミュニティのための日本語教室

(1) 体制整備に向けた取組の目標

学習者が生活に必要な日本語表現と制度や習慣等についての知識を習得するとともに、バイリンガル指導者が実践を通して日本語指導能力を高める。

(2) 取組内容

バイリンガル日本語指導者育成講座修了者を指導者とする日本語教室を開催し、地域の同国人に対して、生活に必要な日本語表現や日本社会の習慣、マナーなどを教授する。

(3) 対象者

日本語によるコミュニケーションが不自由な外国籍県民、また、外国に由来がある者。

(4) 参加者の総数 162 人

中国	19人	タイ	30人
ブラジル	81人	フィリピン	32人

(5) 開催時間数(回数) 75 時間 (全 15 回)、特別講座 2 時間

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
特別講座	平成26年9月7日(日) 13:30~15:30	2時間	長野市もんぜんぶら座	20人	中国(6人)、タイ(7人)、ポルトガル(6人)、タガログ(1人)	バイリンガル日本語指導者育成講座の受講者が、日本語教室を円滑にできるように具体的な準備をすすめる	・グループ毎に日本語教室の実施計画を立てる	堀 永乃 (※謝金等別負担)	コーディネーター 春原 直美
1	平成26年9月20日(土) 13:30~16:30	3時間	あがたの森文化会館	23人	タガログ語(23人)	防災について	・日本語、タガログ語で行なう防災や応急手当について ・災害時や救命に役立つ日本語を学ぶ ・AEDの使い方	奥津 グレース 地域の消防士	
2	平成26年10月11日(土) 13:00~15:00	2時間	佐久平勤労者福祉センター(3教室)	7人	中国(4人)、タイ(2人)、ポルトガル(1人)	オリエンテーション 災害について	・東日本大震災を体験した講師(外国籍)の体験を取り上げ、地震発生時の対応等について学ぶ	沙 軍岡 土屋 ラタナ 賀沢 マリア	コーディネーター 春原 直美 補助者 小山 富男
3	平成26年10月18日(土) 13:00~15:00	2時間	佐久平勤労者福祉センター(3教室)	7人	中国(3人)、タイ(3人)、ポルトガル(1人)	病院について	・消防署に通報し救急車を依頼する時の手順 ・病院での受診の流れ	楊 艶 土屋 ラタナ 賀沢 マリア	コーディネーター 春原 直美

4	平成26年10月19日(日) 13:00~16:00	3時間	須坂市中央公民館	8人	タイ語(8人)	日本の教育制度	・日本の教育制度、進学ガイダンス ・学校の文化、活動、よくある質問 ・実践	井田 ビム テーブ 近藤 アモン ラト 依田 ワン ティマー	補助者 藤澤 裕子
5	平成26年11月1日(土) 13:00~15:00	2時間	佐久平勤労者福祉センター(3教室)	4人	中国(1人)、タイ(2人)、ポルトガル(1人)	ゴミの分別について	・ゴミとして捨てる「容器」などを実際に確認 ・「ゴミカレンダー」「ゴミ袋」を用意し説明	三石 タナ ラック 楊 艶 賀沢 マリア	コーディネーター 春原 直美
6	平成26年11月3日(月) 14:00~16:30	2時間半	長野市柳原公民館	14人	ポルトガル(13人)、スペイン(1人)	防災対策	・防災に備え対応する(地震について、雨の強さ、避難場所)	譜久里 一雄 横谷 マリア	補助者 小沼 めぐみ
7	平成26年11月22日(土) 13:00~15:00	2時間	佐久平勤労者福祉センター(3教室)	5人	中国(1人)、タイ(3人)、ポルトガル(1人)	学校のこと、進路のこと	・学校のこと、進路のことを講義内容に関する現物を見ながら学習	土屋 ラタナ 楊 艶 賀沢 マリア	コーディネーター 春原 直美
8	平成26年11月29日(土) 13:00~15:00	2時間	佐久平勤労者福祉センター(3教室)	5人	中国(1人)、タイ(3人)、ポルトガル(1人)	日本で働くために	・在留資格、履歴書の書き方 ・面接時のマナー	楊 艶 三石 タナ ラック 賀沢 マリア	コーディネーター 春原 直美
9	平成26年11月30日(日) 13:30~16:30	3時間	長野市生涯学習センター(4教室)	20人	ポルトガル(7人)、タイ(2人)、中国(3人)、タガログ(8人)	女性・子どものための防犯対策	【長野県国際化協会主催】 県警の出前講座	譜久里 一雄 橋詰 パイリン 高山 俊子	君島 マリクリス
10	平成26年12月6日(土) 13:00~17:00	4時間	中野市市民会館	9人	ポルトガル(8人)、タイ(1人)	ヘアケア・スキンケア	・長野県の気候、生活習慣 ・お肌の構造 ・ハンドケア	(外部講師) 山田 由華 山田 恵美 安村 プリシラ	補助者 藤澤 裕子
11	平成26年12月10日(水) 11:00~15:00	4時間	長野市ふれあい福祉センター、長野市防災市民センター	5人	中国語(5人)	手巻き寿司作り 防災体験学習	・日本語のレシピを読み、日本ならではの食材など新しい日本語を覚える ・実際に地震や火災を体験する	山岸 炎 沈 文君 森山 恵	
12	平成26年12月13日(土) 13:00~15:00	2時間	佐久平勤労者福祉センター(3教室)	22人	中国(2人)、タイ(11人)、ポルトガル(9人)	健康保険、年金について	・国民健康保険の加入、喪失手続きについて ・年金の受給資格・仕組みについて	賀沢 マリア 土屋 ラタナ 楊 艶	コーディネーター 春原 直美 補助者 小山 富男
13	平成26年12月14日(日) 15:00~17:00	2時間	ブラジル人学校 コレージョ・ロゴス	33人	ポルトガル語(33人)	防災対策について	・塩尻市消防防災課出前講座	譜久里 一雄 横谷 マリア	
14	平成26年12月21日(日) 13:00~16:00	2時間	須坂市中央公民館(2教室)	12人	中国(2人)、タイ(5人)、ポルトガル(5人)	日本の食文化を体験	・長野県の郷土食の学習 ・おやき調理体験	(外部講師) 高橋 孝幸(14:00~) 古畑 伸一(14:00~) 井田 ビム テーブ ロザ クラコ 菊池	補助者 藤澤 裕子
15	平成27年1月18日(日) 13:30~16:00	2時間半	長野市もんぜんぶら座	17人	中国(7人)、タイ(4人)、ポルトガル(4人)、タガログ(1人)、日本(1人)	フォローアップ講座	・各グループの実施状況報告 ・講師による事例発表 ・ワークショップ	NPO法人 アラッセ代表 金城アイコ	

- (7) 取組の目標の達成状況・成果  
指導者としてあまり経験のない方々が、この事業をとうしてバイリンガル指導者としての役割やその必要性を認識する事ができた。
- (8) 改善点について  
・バイリンガル指導者育成講座終了から教室が開催されるまでの準備期間が非常に短く、不十分な点があった。指導者が余裕をもって教室に挑めるようなスケジュールの組み方を工夫したい。

○取組3: 多文化共生推進指針策定委員会

- (1) 体制整備に向けた取組の目標  
多文化共生推進指針の策定。
- (2) 取組内容  
これからの長野県における多文化共生の推進の方向性を検討し、日本語学習支援を柱に据えた多文化共生推進指針を策定する。
- (3) 対象者  
策定委員会委員
- (4) 参加者の総数 15 人

出身・国籍別内訳

中国	人	タイ	1人
ブラジル	1人	フィリピン	1人
日本	12人		

- (5) 開催時間数(回数) 7.5 時間 (全 3 回)
- (6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	出席者氏名	補助者氏名
1	平成26年5月15日(木) 13:30～16:00	2時間30分	長野県庁議会棟第2特別会議室	15人	ブラジル タイ フィリピン 日本	「外国籍県民のコミュニケーション能力の向上を図り、生活面での支援体制を充実させる等、誰もが暮らしやすい地域づくりを目指すと共に、外国籍県民が主体となった活動を推進する」などを施策目標とした「長野県多文化共生推進指針」の策定	○自己紹介 ○委員長の選出について ○多文化共生の最近の動き ○議事 ・長野県の外国籍県民の現状と課題の整理 ・多文化共生に関する基本的な考え方の整理 ・施策の方向性 ○第2回会議開催スケジュールについて	山脇 啓造 佐藤 友則 春原 直美 梶田 能孝 村松 正孝 根橋 美津人 小池 美樹 ルシア 飯田 いつき 井田 ビムテーブ 奥津 グレース 賀澤 マリア 祐 恵 宮島 氏原 恵理子 征矢 ひろみ 反町 健 笠原 理恵子	—
2	平成26年9月17日(水) 13:30～16:00	2時間30分	長野県庁特別会議室				○委員会報告書骨子案について ○第3回会議開催スケジュールについて	佐藤 友則 春原 直美 梶田 能孝 村松 正孝 根橋 美津人 小池 美樹 ルシア 飯田 いつき 井田 ビムテーブ 奥津 グレース 賀澤 マリア 祐 恵 宮島 氏原 恵理子 征矢 ひろみ 反町 健 笠原 理恵子	—
3	平成26年12月18日(木) 13:30～16:00	2時間30分	長野県庁議会棟404・405会議室				○委員会報告書案について	山脇 啓造 春原 直美 梶田 能孝 村松 正孝 根橋 美津人 小池 美樹 ルシア 井田 ビムテーブ 奥津 グレース 賀澤 マリア 祐 恵 宮島 氏原 恵理子 征矢 ひろみ 反町 健 笠原 理恵子	—

- (7) 取組の目標の達成状況・成果  
「長野県多文化共生推進指針」を策定

○取組4: 多文化共生推進シンポジウム

- (1) 体制整備に向けた取組の目標  
一般県民等に対して、長野県における多文化共生社会作りと、それに資する日本語教育の在り方について認識を深めてもらう。
- (2) 取組内容  
取組1～3における事業成果を、一般県民、外国籍県民、市町村、NPO等に広く周知するためのシンポジウムを開催する
- (3) 対象者  
一般県民、外国籍県民等、市町村、県及び市教育委員会、日本語学習支援に関わる団体、個人等

- (4) 参加者の総数 45 人  
出身・国籍別内訳

中国	2人	タイ	1人
ブラジル	3人	フィリピン	1人
日本	38人		

- (5) 開催時間数(回数) 4 時間 (全 1 回)

- (6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成27年2月22日(日) 10:30～ 15:30	4時間 (休憩時間を除く)	長野市 柳原公民館	45人	中国(2人)、ブラジル(3人)、タイ(1人)、フィリピン(1人)、日本(38人)	平成26年度策定中の「多文化共生推進指針」について、策定状況を県民に周知し、今後の長野県多文化共生のあり方について認識を共有する機会とする。 また、平成26年度日本語学習支援事業の実施状況と成果について報告を行う。	○基調講演 「多様性を活かした多文化共生社会に向けて」 ○多文化共生推進指針策定について報告 ○外国籍県民の力を活用した地域社会の活性化について ・体験談 ・パネルディスカッション	山脇啓造 (明治大学国際日本学部教授) 堀 永乃 (一般社団法人グローバル人財サポート浜松代表理事) 春原 直美 (日本語教室・すずらんの会事務局長) (体験談) 横山ルッカス (パネラー) 井田ビムテープ 沙 軍岡	

- (7) 改善点について  
地域の外国籍県民の方の積極的な参加が少なかった。周知方法も踏まえ考えていきたい。また、午前、午後にまたがった開催だったため昼食のとりかたなど、ご参加いただいた一般の方々への配慮が足りなかった。開催日程、内容など今後更に工夫したい。

## 6. 事業に対する評価について

### (1) 事業目的の達成状況

これまで長野県内で外国籍県民等が日本語を学ぶ機会は、市町村やボランティアが主体となって運営している日本語教室やJICEの実施する就労準備研修であったが、県としても外国籍県民等との意見交換会、県民モニターアンケート等を通じて、多文化共生を推進する上で日本語や日常生活に必要なルールを学ぶ機会を提供することが重要であると再認識した。

そこで、既に一定期間日本で生活し、様々な経験を積んだ外国籍県民等から来日して間もない外国籍県民等に、日常生活に必要なルールをその際必要になる日本語も合わせて教えるバイリンガル日本語指導者育成講座を開催することとした。

この講座は、予想を上回る参加者が集まり、受講者は、自身の困った経験などに基づき、必要な知識とその際必要になる日本語とその教え方について学んだ。

講座修了者は、グループで、仲間のために必要な知識とその際に必要になる日本語を学ぶ機会を設け、外国人コミュニティのための日本語教室の参加者は162名にのぼった。

また、県として多文化共生に関する指針を策定するため、長野県多文化共生推進指針策定委員会を開催した。この委員会では、日本語の学習支援の方向性も含め、今後の長野県における多文化共生の推進の方向性を検討し、県として、外国籍県民等の存在を地域づくりにおいて積極的にとらえ、多様性を活かした地域づくりを推進する指針を策定した。

さらに、策定した指針を広く県民に周知するため、多文化共生推進に関するシンポジウムを開催し、指針に示した多文化共生の推進に係る方向性、施策の柱、役割分担等について、説明するとともに、バイリンガル日本語指導者育成講座の修了者による報告、パネラーによる意見交換を行い事業の成果を共有した。

### (2) 地域における事業の効果、成果

本事業を通じて、バイリンガル日本語指導者育成講座の修了者等の連携を促し、「自分たちだけで、地域のために活動ができる」と勇気づけることができた。

これにより、バイリンガル日本語指導者育成講座の修了者等が主体となって、地域のキーパーソンとして外国籍県民等の共助活動の推進をはじめている。

こうした動きは、市町村やNPO等が既に行っている日本語学習の支援などの多文化共生の推進に関する取組と連携し、さらに広がりをもった活動に展開されることが期待される。

この事業は、県が実施主体であったことから、地元の市町村やNPO等との連携を重視したが、これにより、地域が一体となって日本語学習の支援に取り組むことができたほか、県が行う他の多文化共生の推進に係る事業の展開においてもスムーズな運営を図ることができた。

また、外国籍県民等の住民が少ない市町村にも、日本語の学習支援など多文化共生の推進に関する施策について、方向性を示すことができた。

### (3) 改善点、今後の課題について

#### 今後の課題

バイリンガル指導者育成講座終了後に行なう、外国人コミュニティのための日本語教室の企画に時間が取れなかったことから、早めに全体のスケジュールを参加者に周知していく必要があると感じた。バイリンガル日本語指導者育成講座の修了者が外国人コミュニティのための日本語教室を実施するなど、地域のキーパーソンとして外国籍県民等の共助活動を推進していくためには、そうした動きをサポートする人材が必要であり、今後は、こうした人材の発掘や育成に取り組んでいく必要がある。

また、県内の一部の地域で実施したため、今後は他地域でも同様の取組を実施したい。